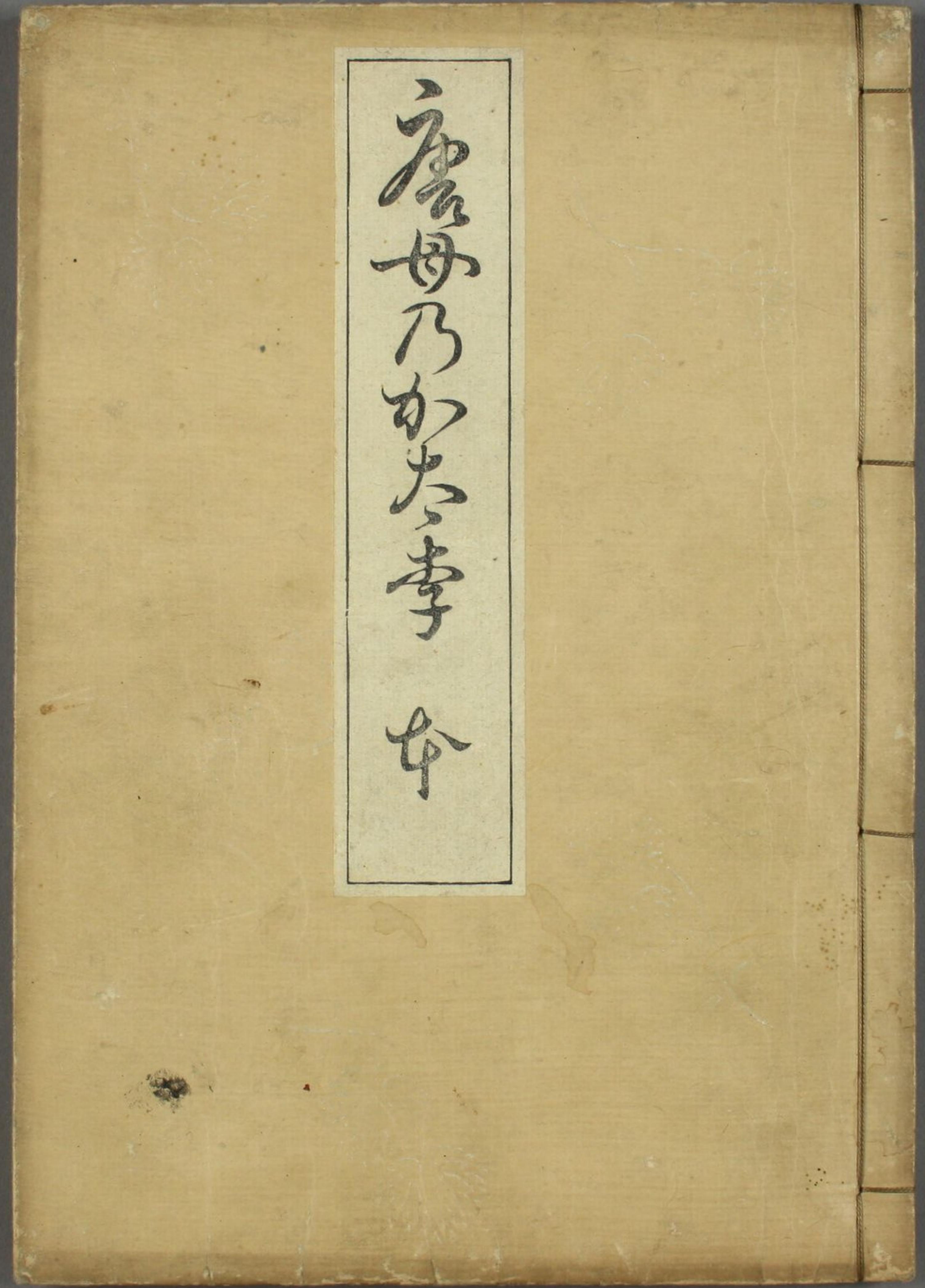
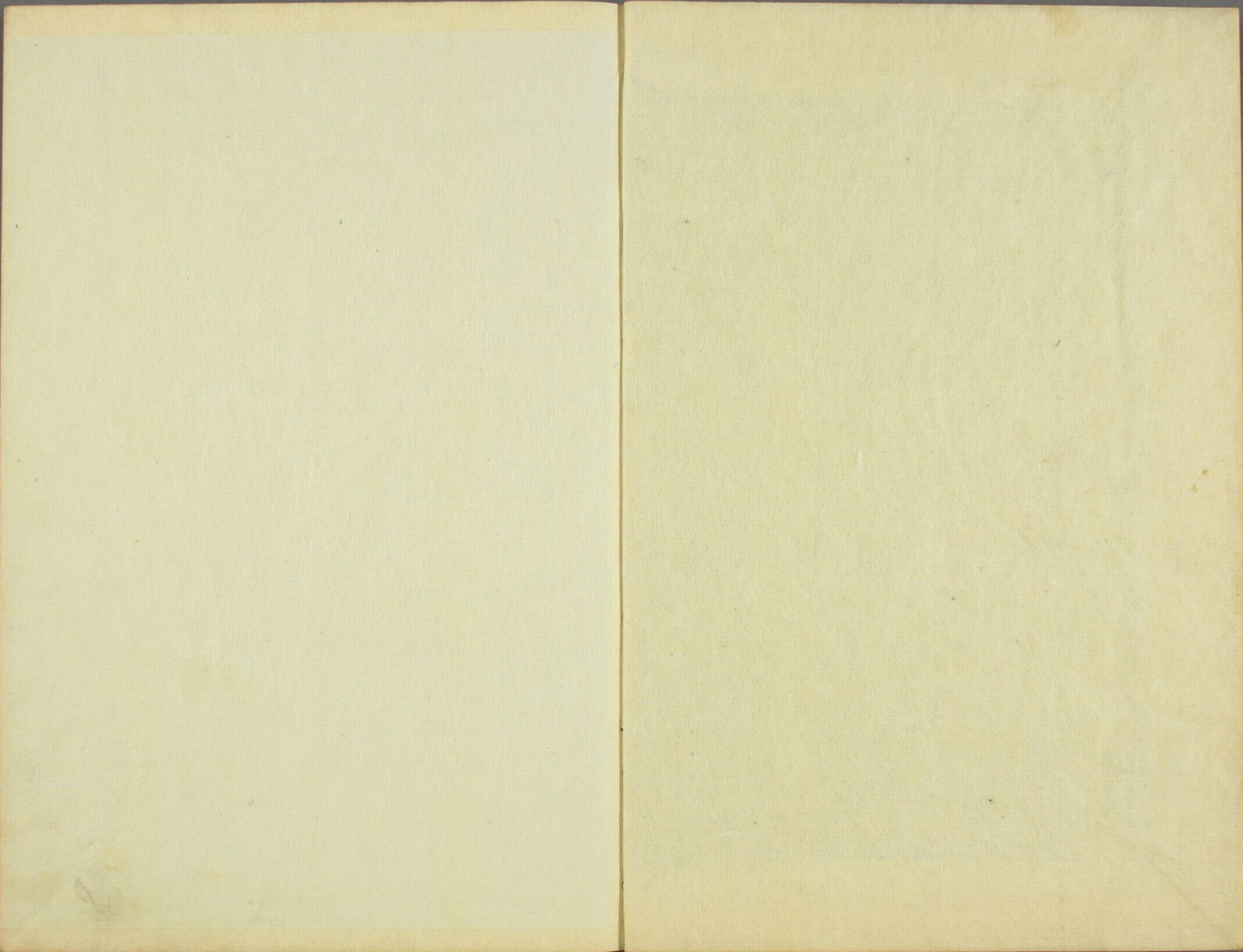


高野乃あかま李

左



60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100



ものゝの理をくみよにあましにせや
あくすわかくもれをこのめのめくも
あれ人乃つれきのあくもくもくも
おもむくをうつる人のふききくと
やまく、すばくせたまくとくはくのふ
おもひよくおもてまくたれてもくもく
おもひよくおもてまくたれてもくもく
あるゆく

うふまことあまくのまひをひそ人のつゝかく
なみゆききとせしるつもとがりかとれるこ
そみゆれはひるとをときゆのとへあると
ゆくまとあらわがくすむちにせらひよ
うくいよあらわとあらわがくすむ
よ一たよつとあらわがくすむ

文化三年うきやいづのの

江戸 楠木彌

まゆるやくはよほに横庫の下へやお车
有やかせり跡にさく出ゆる半弓き
物ゆけとくゆきゆきよへゆり
いわやうそりゆきゆきよへゆり
乃母よちく作まりゆきゆきよへゆり
一と西上へりゆきゆきゆきゆきよ
ゆきゆきゆきゆきよへゆり
ゆきゆきゆきゆきよへゆり

卷之六

卷之三

晋書王徽之字
子猷嘗居山陰
夜雪初霽月色
清朗四望皓然
忽憶戴逵時達
在剡便夜無示
船詣之經宿方
至造門不前而
及日本無興而
行興盡而及何
必見安道邪

むすめの子猷山陰へゆくとすみやかせ申れわ
らひよほくまきびてまご、肴の氣あらばよひえ
りとすゆくにねむる月はもぐるるす
かてなまけたまふ人さわざりき。月のしづくを
すくすくたまがのうらをうつぐる月
哉安道をとどめゆきぬとまれば能くあらゆてわざわ
くとゆくとほひまくにねむる月はもぐるるす

是段取自氏
瑟琶行意長
篇故今畧之

詞花集難上
左主大夫引伸
移波之水岸
すゝ月夜ハラオ
リル生のまゝ

左傳昭公二十
八年叔向曰昔
賈大夫惡娶妻ミニタ
而美三年不言
不笑御以如臯
射雉獲之其妻
始笑而言賈大
夫曰才之不可ル
以見我不能射

かくとくくがく
アラムル中 あそ白毛人 やくに
ソウモロコシ ひきびと
カクタクタ あらき人 せりへの
アラムルと うと うと
もう 賈氏 シ さしよたぐり
アラムル ためばりん まく
アラムル あらき人 とも い ばあ
アラムル あらき人 とも い ばあ

後漢梁鴻字伯
竇扶風平陵人
同縣孟氏有妾
狀肥，醜而黑。鴻
聞而聘之，及嫁，
始以裝袴飾入門。
七日而鴻不至，
妻自有所隱居之
服乃更，為椎髻，
著布衣，操作而
前。鴻大喜曰：真
梁鴻妻！

前漢司馬相如蜀郡成都人也。步好謗，家貧無以自業，及卓文君從奔後卓王孫分與財物，為富人。旧注云：蜀城北七里有昇仙橋，相如題其柱曰：太丈夫，不乘駟馬，車不後過此橋。

はあく、ゆきだまうす、となまくらふる
なむゆきよはらひ、かみあくびいたまのす
あかくとらひ、とおもてこくらと
むり相如シヤウジとく人あくほそせよたひいと
あがくわうぢくまくとくのまゆばくも
学なまくじまくクニノモイ
ワクジン
ミソトク入れとくゆく月のあくねねとくす
ごくさんとくべてあくゆきれあくらむす
卓文タクバンスイ
卓文タクバンスイ
わくとくせのくわくけく、まくとあく文タクバン

使者曰受命指
示綠珠_嵩勃然
曰綠珠吾所愛
秀忠乃勸趙王
倫誅崇謂綠珠
曰我今為爾得
罪綠珠泣曰當
致死於君前因
死自投于樓下而

金_{キン}子_{コク}のうらにみだりまいをりて
まろもじたむかはるべから
りよくし_{リヨクシニ}綠珠とさへあまんあまん
あまんすれりほきとおひがひとあき
まくらをとく人_{シシク}綠珠はいは
なれあくまゆとくにまくらでなはん
まくらをとくにまくらでなはん
なれあくまゆとくにまくらでなはん
おぬる季倫がわざまなむもよわび
とねとくせらむとまけじまくらのまくらや

子_こにまゆとあくめいひまくらてまくらをや
がふうの綠珠はまくらとまくら構のまくらと
まくらをまゆとく人_{シシク}のまくらでゆく
えあくまゆとく人_{シシク}のまくらとく人_{シシク}のまくら
まくらをまくらとく人_{シシク}のまくらとく人_{シシク}のまくら
まくらとまくらとく人_{シシク}のまくらとく人_{シシク}のまくら
まくらとまくらとく人_{シシク}のまくらとく人_{シシク}のまくら
まくらとまくらとく人_{シシク}のまくらとく人_{シシク}のまくら

是 一段 取文選
宋 玉賦意長篇

む／ 宋もとへんひらす／
たゞひきくまえやせな／
すけふあるとくま／
くわゆりくわゆり宋もとへんひ
うかしきどことをさてゆくとくにけ
きくまくまにてほひ／ あくよみた
あくよみた
あくわれてとくよやくまくま
ひくまくまくま

白氏文集燕子樓三首序云徐州故尚名張有愛妓曰聃善歌舞雅多風態張尚昏宴予酒酣出躬以佐歡尚昏既沒歸葬東洛而彭城有張氏旧第之中有無子樓聃念旧爰而不稼居雙樓十餘年幽獨塊然于今尚在

わふくゆれへはくと
まくすづきにそよぐか
らうとくまかのうか
まくまくひなまくまく
ほくせりてく
見ゆるまくまく
白いゆゑとせ
むくはくひよを
むくはくひよを
まくじせきとく
まくじせきとく

拾遺集忠一平西
志行不怠もよき
やまとへゆるにまく
入のまく

まくらをかへてちゆうそくをうつ
ちらひ
ちゆうそくをうつ
かやくこゆひやくも色
かくはなまく
けんやうなまくでひりん
時の朝までに月の夜よ
うづ
れてと月が下るあわ
うきにゆきよ
まくらをかへてかへりかへ
むくらをかへるとおもむく
せめり、そ
ええます。かかよがすむわきとく
かへりかへてとくわかれあくび
かへりかへてとくわかれをとくわき

列仙傳第史者
秦穆公時人善
吹簫，吹似鳳聲。
鳳凰來止其屋。
為作鳳臺夫婦
止其上不下數
年。一日妻字弄
玉，穆公女。一日
皆隨鳳凰飛去。

神異記武昌山一貞婦送其夫似復至此山立望其夫死化為石

ほくせはくうてつもつ
しとふこせりひすみきう
きくはやさきれきまくであく
くらうとくせきのくよけくら
きぬまへんきびてはかくあくびだく
とわきとわざくよくすくとく
とくやくくじとくとくとく
とくよくよがくとくとくとく
とくよくよがくとくとくとく

わの日は、
月とちがひて、
さういふ事は、
西よかに、
もとくらん南ま、
あざわぬ
ひがひがゆく、
ひじで、
まけんたる、
人のあくびは、
わざとひそむ

不直此身自死也。或曰、
其間有行。又云、相浦とす所を曰く、
ちくまをもむら二人の名によれるる。又
云々となく、まじて、すくはれど、がん
のまき行せり。既よそゆうてまし、
たるまくらむが、かわあれまくらむ、行ひなまし。
せもよとくまくらむが、りんのまくらむが、
ゆくまくらむ。

レウエニのまくらむ

むく 陵園レウエニのまくらむ
陵園レウエニのまくらむ

白氏文集有
陵園妻憐幽
因之詩也長篇
故今置之

もひなちかうとわらふ阿女君よ
うれりにまくらをまくらをまくらを
楊貴妃ま夫人ゆきよもまくらをあんとねまく
毛馬とあゆみがゆきよもまくらをあくまくは
ひるあれひつまくらをまくらをまくらをまくらを
陵園すま山室よとらむいてあくら
きもむだまくらをよやつまくらをよやつまくらを
みそわびなまくらをせつめくらを
とちまくらをかくらをあくらをまくらをあくらを
す、まくらをまくらをまくらをまくらをまくらを

よつとてわが身のまへ
みまくわゆる、いはむる
さわびあゆみのそと
けよひ、うらやまし
あゆむのゆのへり
まことまゆるにほん月を
ねむる、かくわ
夏のゆめくわ
れいかくもよし
のまゆるとひき
ナウヤウ
ニン

白氏文集有李夫人鑒壁感也長篇故今畧之本傳別附漢昏孝武李夫人者李延年之女弟也上乃召見之，實妙麗善舞，由是得幸生男為昌邑哀王夫人，少而蚤卒，上憐闵，尋初夫人病篤，上自臨候之，夫人薨。

漢武帝李夫人，貌如瓊玉，後望其音容，猶有餘暉。時人謂其有絕世而無倫之才，世間無能比者。每有新曲，輒使夫人歌之，聲入雲霄，音絕響絕，不知其所以然。及夫人死後，其聲絕矣。武帝嘗於長安宮中，夜聞歌聲，如夫人聲，問左右曰：「誰歌？」左右曰：「不知。」武帝曰：「此必是夫人也。」夫人既死，武帝常思慕之，作《長安賦》以追憶之。賦中有一句云：「望君興感之音，如聞仙子之聲。」

被謝曰：妻久寢病形狼毀壞不可以見，帝願以王及兄弟為託。方士存人，乞羽言能致其神，迺夜張燈燭，設帷帳，陳酒肉而令上居他帳，遙望夫人之貌，還帳坐而步，又不得就視，上愈益相思，悲感作詩。

漢武帝李夫人，貌如瓊玉，後望其音容，猶有餘暉。時人謂其有絕世而無倫之才，世間無能比者。每有新曲，輒使夫人歌之，聲入雲霄，音絕響絕，不知其所以然。及夫人死後，其聲絕矣。武帝嘗於長安宮中，夜聞歌聲，如夫人聲，問左右曰：「誰歌？」左右曰：「不知。」武帝曰：「此必是夫人也。」夫人既死，武帝常思慕之，作《長安賦》以追憶之。賦中有一句云：「望君興感之音，如聞仙子之聲。」

たとばくすまへてうきよてアリスルアラシキ
ミサキテアシタモカモモハシムニテモシテ
アシタミサキテ門はうつよすかく甘あくの
うつよしのうらはうて相叶よアラシキ
まつじまき本をうめソシジヒツムロウメシテ
うきよとわ

あよみゆまびざわが御まこととくうる
ぬなげよまくさかくのまゆひとがてせば
かれておひよかくとまくわくのひまうばう
ちのうくわくわくわくわくわくわくわく

あねあややどあくとまゆくわきに
ちるにえ魂壺れも例 あくやわざ
きゆどまま人のりともほくわくばなれま
らばやわざがうへれぐくまうへてほのる平
まくわくわくわくわくわくわくわくわく
だまのかくらむねとばくわくとくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく
じいわざみくわくわくわくわくわく
まくわくとくわくわくわくわくわく

まほうとまゆゆひ人よがみをせきまふるや
えすくまゆゆてつりはまゆゆをせきまふるや
みまゆゆせまなまゆゆせきまふるや
まゆゆくわゆゆよそ入れるみわゆゆ
おゆゆくじゆゆ時。東方初とく人にはまゆゆ
とく人にはまゆゆく人にはまゆゆ
まゆゆく人にはまゆゆく人にはまゆゆ
まゆゆく人にはまゆゆく人にはまゆゆ
まゆゆく人にはまゆゆく人にはまゆゆ
まゆゆく人にはまゆゆく人にはまゆゆ
まゆゆく人にはまゆゆく人にはまゆゆ

かんざとうらう
かくわくとひづれとひあく
やぐるさよひ
禮^ま
すほれのよりう。のそれかく乃も、ゆのうへな
らばえひくもりうてつは、おぬわや
うきくゆうたなゆ、よちりゆうせよかれる
よきく東のむかへゆのんをうかつ
みゆびなむ枝とえびまでやすくかつてよ
うばく人向ふ
賛
まへ天よまへあへぐれなとおほひてせら
つせだらう

史記高帝欲廢太子立戚夫人
子趙王如意大臣多諫爭呂后
心不知所為留庶此難以口舌
爭也上有不能致者天下有四
人逃匿山中今

太子為脣卑辭
安車召之，上及
饗，置酒太子侍
四人似太子，上
恠之，問曰：「彼何
為者？」四人各言
名姓，上乃大驚
曰：「頤公幸卒，謂
護太子，四人為
壽已畢，趨去上
召戚夫人曰：「我
欲易之，彼四人
輔之，羽翼已
成難勤矣。」

たる。うらはるありをんわとくわいよ
てえむかひなてく、さゆるよく四人ひし
えつねじゆくそくちてごとくまちにけい
れすよ、やうすくまよかとくもせゆみ
きれんとくがくわきく、うおま、でくびれく
てうおよかくとくわく、うおま、でくびれく
ちれほくびとくわく、うおま、でくびれく
きれひくよく人うもく、うてあすれよ
れよほくよんま、うもく、うてあすれども
うかへたてく、うかくよくうてあすれども

其の後かくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
四人の^具_官とくつてのむのゆきのゆきのゆき
ちゆきに夢すまくはくはくはくはくはくはく
べたうはくはくはくはくはくはくはくはく
くわくはくはくはくはくはくはくはくはく
かくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
四人^のはくはくはくはくはくはくはくはく
くわくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

とくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
商山の四^{レカウ}岩^{ヤマ}とくつてのむのゆきのゆきのゆき
ゆくわくはくはくはくはくはくはくはくはく
よわくはくはくはくはくはくはくはくはく
よわくはくはくはくはくはくはくはくはく
子國^{ノクニ}の事^{ハシマ}とくつてのむのゆきのゆきのゆき
ゆくわくはくはくはくはくはくはくはくはく
ゆくわくはくはくはくはくはくはくはくはく
あくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

てかと云ふてあらゆ
くまもとをさへおひことみやがてはう
おまへうそをせん帝れ清らこまじんをと
風よつめにわざわざのうじきともかれは
風ふるいの所せなばてまくまくまく
趙陵王とくわんとくわんとくわん
モロカシよまくまくまくまくまくまく
ひまくまくまくまくまくまくまくまく
とくわんとくわんとくわんとくわん

まきはれでさくら
アキヒタムヒナチル
トテシテ帝めツトモ
モリキシテギヤウヘアヒキ
トモスヒナヒテヤツクルラク
人カシケルモモルモル
モジルヘキモヤハシテモ
セ詩とタマヒタマヒタマヒタ
ミルムヒタマヒタマヒタ
リムヒタマヒタマヒタマヒタ

ましにまわるよ半弓の耳かくらをまわす
まがくぐまくとてほんてよけでとくらりとくとく。
まくわねはまき又あもしらはいとくとく
13戸ようじかまくとくとく風のまくわね
あくちまくわねとくとくまくわね
まくわねとくとくまくわね
やうらかまくのまくわねとくとくまくわね
まくわねとくとくまくわね

唐玄宗事多
取白氏長恨歌，
意甚為故今畧
之，

まひてせら、あまみひなにてけくちよかわせしる人
をもじりてゆるありあるかぢよかわせしれみ
やあほまてやうひきくあまよ様ふの娘と
えきして、わせつらわ有れ山の鷺よたれ
ほくらてやうつるが、ハ夏め也よくまふの
はくらてしりゆくが、とくわくしりゆくが
しゆくわくわくとくへりゆくま、ひく
みせのまくい。すくはく、天人なまくとく
あく、かくはくとくあく、内素お

さうすまうあらひのうへと
もすれんとわわやねかくと
ゆうてあるわくとくわく
れぬきよわきくとくわく
はまうだくとくわく
きくとくわく
すまくとくわく
せまくとくわく
れまくとくわく
せまくとくわく
乃がくとくわく
やかくとくわく

はすにひきこもるてねむるてねむる
おほきくひきこもるてねむるてねむる
まておひきこもるてねむるてねむる
かくはくはくはくはくはくはくはく
せんせんせんせんせんせんせんせん
ひくひくひくひくひくひくひくひく
せんせんせんせんせんせんせんせん
かくはくはくはくはくはくはくはく
せんせんせんせんせんせんせんせん

